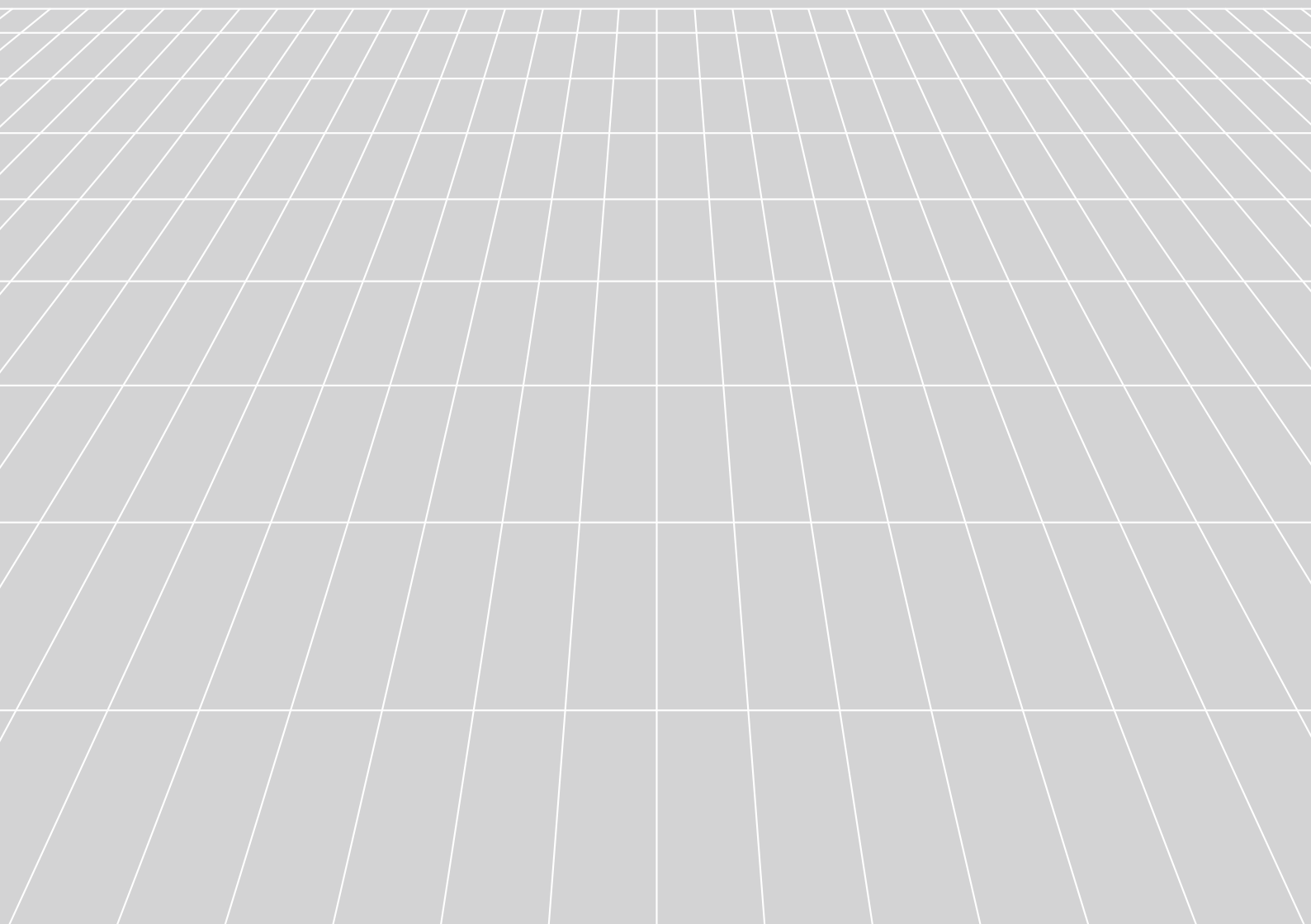


2017年度

# 傾向と対策



**2017年度 英語 公募制推薦入学試験【全学部共通】****傾向** 短時間で効率的に内容を把握する力を要する**① 出題形式は？**

大問数は3題で、その全てがマークセンス方式による四者択一の解答方式となっている点、解答数が合計20個である点も昨年から変わりはない。試験時間は、数学または国語と合わせて2科目で60分である。

**② 出題内容はどうか？**

大問Ⅰは長文問題で、本文内容に関する小問が5問出題されている。大問Ⅱは大問Ⅰの3分の1ほどの長さのエッセイ風文章の空所補充問題で、小問5問が出題されている。大問Ⅲは対話文の空所補充問題10問となっている。

**③ 難易度は？**

大問Ⅰの長文は量的には昨年並みで約240字である。慣用表現や熟語が所々に使われているが、特に難解なものはなく、比較的分かりやすい文といえる。記述されている内容を、短時間で正確に把握する力が求められる。大問Ⅱの選択肢はいずれも、動詞または助動詞としてのhaveの用法となっており、文法問題の要素が強い。難問ではないが、空所前後のヒントとなる語句を短時間で正しく見いだす必要がある。大問Ⅲは、空港での状況に馴染みがないとやや分かりにくいかもしれないが、英文としては平易である。

**対策****① ポイントを押さえながら読み進める力を鍛える**

大問3題の英文はいずれも比較的分かりやすいものであるが、1科目30分前後という限られた時間を考えると、効率的な読み方が要求される。つまり、単に速読するだけでなく、「誰が／何が」、「誰を／何を」、「いつ」、「どこで」、「どうした」といった重要ポイントをしっかりと押さえながら読む、ということである。特に大問Ⅰのような長文は、各段落の内容を把握しながら全体の流れも確認するべきである。これをスムーズに行えるようになるには、日ごろから意識的にそのような読み方をし、慣れておく必要がある。

**② さまざまな内容の英文を読もう**

例年長文と会話文が出題されているが、内容的には、長文なら今回のような伝記的なものや、何らかの出来事や社会問題に関するものなど、会話文なら旅に関するものや、大学生同士や学生と教授とのやりとりなど、さまざまなものがあり得る。どのような内容でも苦手意識なく読めるようになるには、日ごろから多様な内容の英文に接することが大切である。

**③ 基本を徹底すると同時に、文脈から推測する力をつける**

基礎文法および基本的な単語・熟語・構文を徹底的に習得することは必須であるが、それでも意味の分からないものに行き当たる可能性は常にある。そのような時には、前後関係、つまり文脈からその意味を推測することが必要となる。辞書を引きながらの勉強ももちろん大切であるが、時には辞書に頼らず、得られる情報から判断してみることも重要である。

**2017年度 数学 公募制推薦入学試験【全学部共通】**

**傾向** 数学 I は全範囲の基礎的な知識及び計算力を高めよう  
数学 A は得意とする分野の問題の知識の理解を深めよう

**1 出題形式は？**

全問マークセンス方式で、必答問題と選択問題に分かれている。必答問題として大問2題（各大問の中に小問3問ずつ）、選択問題として大問3題（各大問の中に小問3問ずつ）のうちいずれか2題を選んで解答する。マークする箇所は選択する問題によって36～38個ほどになる。試験時間は、国語あるいは英語と合わせて2科目で60分である。

**2 出題内容はどうか？**

必答問題では、数学 I で扱う「数と式」、「三角比」、「データの分析」、「2次関数」が出題、選択問題では、数学 A で扱う「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」が出題された。

**3 難易度は？**

どの問題も教科書の章末問題レベルの問題をしっかりと行っていれば十分に対応できる問題である。

**対策****1 教科書の内容をまんべんなくおさえる**

特定の分野に限らず、数学 I 及び数学 A のあらゆる分野の内容が出題されている。よって、得意不得意があったとしても、すべての分野において学習しておくことが望ましい。ただし、応用問題の出題はほとんどないと考えてよいので、教科書をまんべんなく網羅する方法での学習が有効的である。高校の定期試験で間違えた基本的な問題を攻略しておくなど、学校の学習内で十分に試験対策を行うことができる。

**2 即答力をつける練習が必要**

難問といえる問題はなく、数値や問い方なども含めて、極めて素直な問題である。しかし、試験時間が短く、1問にかけられる時間が限られているので、問題を見たら即座に解答の方針をたてられるような訓練が必要である。

また、マークセンス方式に慣れることも、即答力をつける上で大切である。同じ形式を採用しているセンター試験用の問題集を解くことも対策として有効である。

**3 重要分野別の対策を**

「図形の性質」の分野については、中学校で学んだ、相似、合同、円の性質、三平方の定理などの知識が必要とされる問題も出題されるので、しっかりと復習しておく必要がある。

また、「2次関数」の分野については、2次方程式や2次不等式と絡んだ内容で出題されることもあるので、関数と方程式の融合問題の演習は取り組んでおきたい。「データの分析」の分野については得点源の分野でもあるので、用語や公式の理解は万全にし、点数を稼げるようにしておく。

**2017年度 国語 公募制推薦入学試験【全学部共通】****傾向** 国語の知識を問う問題が増加

論説文の読み取りから基礎学力を測る

**① 出題形式は？**

小問8問からなる長文読解1題、国語知識を問う小問2問からなる1題の、大問2題で構成されており、解答数は20個である。全問マークセンス方式で5つの選択肢の中から1つを選ぶ選択問題（大問Ⅰ問7の並べ替え問題のみ四者択一）である。解答形式、解答数は例年とほぼ同じであるが、大問が2題になり、出題形式に変化があった。試験時間は、英語または数学と合わせて2科目で60分である。

**② 出題内容はどうか？**

大問Ⅰは現代文からの出題で、日本の文化を論じた論説文である。「わび」「さび」という言葉が示すものを日本の文化や伝統、欧米との比較を通して考察している。小問別にみると、漢字、語句の意味、接続詞、熟語の空所補充、文章の並べ替え、趣旨把握が出題されている。大問Ⅱは四字熟語、文学史が出題されている。

**③ 難易度は？**

論説文は読みやすいもので、内容理解の問題は標準的な難易度である。大問Ⅰ、Ⅱ共に出版されている熟語の問題は、文脈や提示された条件からある程度の予測はつけることができるが、やや難しい熟語もある。また、大問Ⅱでは文学史なども出題されていて、読解力だけでなく国語の知識も要求されているため、難易度は例年より少し高くなっている。

**対策****① 論説文に慣れる**

例年、長文読解では論説文が出題されているので、論説文の読解問題を中心に練習しておきたい。一言に論説文といってもさまざまなジャンルがあるので、幅広い分野に触れておくこと、論説文の論理の組み立て方、筆者の主張の述べ方の型を知っておくと読みやすくなる。接続詞や空所補充問題では内容をしっかりと読み取り、内容把握問題の正答につなげていかなければならない。そのためには、標準レベルの問題集などで解く練習をして、確かな読解力を身につけておくことが必要である。

**② 幅広い国語の知識を**

漢字、熟語、文学史など国語の知識を問う問題は着実に得点できるよう、日ごろから言葉に対する興味を持って語彙を増やしていこう。単語だけ覚えるのではなく、意味や使い方をセットで覚えると定着しやすい。作者と作品を結びつけて覚える習慣もつけておくとよい。

**③ スピードと正確さの両立**

2科目を60分で解くので、時間配分も大切である。特に長文を読むスピードでかなりの時間差が出るので、日ごろから文章を読む習慣をつけ、速読につなげたい。急ぐあまりミスが出ては本末転倒なので、正確さも必要である。ダブルチェックのやり方など自分なりにミスを防ぐ方法を確立しておくことも大切な対策である。

**2017年度 英語 一般入学試験【全学部共通】****傾向** 文章読解は細部まで問われる

会話問題や語彙・文法・語法がバランスよく配分されている

**1** 出題形式は？

大問が4題あり、解答数は大問Ⅰと大問Ⅱが10個ずつ、大問Ⅲと大問Ⅳが5個ずつの合計30個である。全問マークセンス方式の選択問題で、四者択一形式である。試験時間は60分である。

**2** 出題内容はどうか？

大問Ⅰは230語程度の文章読解問題で、世界における鉄道や地下鉄の歴史について書かれた説明文である。19世紀にイギリスで鉄道の歴史が始まって以降、人々の生活に急速に変化をもたらした経緯が述べられている。設問数は各パラグラフに2～3問であり、細部まで注意して読む必要がある。大問Ⅱは電車内で、就職活動中の学生が乗客の男性と話をする場면을題材にした会話問題である。大問Ⅲと大問Ⅳは空所補充形式の文法・語法問題で、どちらも100語以内の短い文章である。

**3** 難易度は？

大問Ⅰは、年代を中心とする数字や地名が多く登場する文章であり、解答しやすい問題であるといえる。設問文や選択肢も本文を複雑に言いかえたものではなく、語法問題も基本的事項の確認レベルといえよう。大問Ⅱは会話表現の知識を問う設問が多いが、文の流れをつかめれば選択肢を絞ることが可能な標準的難易度の問題である。大問Ⅲと大問Ⅳの文法・語法問題は、基礎～標準的な難易度である。

**対策****1** 会話特有の表現を身につける

会話問題は、知識の有無で得点に差がつく設問がほとんどである。つまり知識さえあれば、選択肢に迷うことなく正答を導き出せる設問が多いのが特徴である。基本的な会話表現が網羅された問題集を一冊準備し、会話の定番表現を身につけるとよい。場面ごとに編集されている会話問題集であれば使いやすいのでなおよい。ページ数に関してはコンパクトにまとめられたものでよいので、間違えた問題を繰り返し解き直すことで量より質を高めることが大切である。

**2** 基本的文法事項をマスターする

高等学校で扱う文法書があれば、その参考書を一冊確実にマスターするのが合格の近道である。文法問題は動詞の時制や活用を中心とした基本的な事項を確認する問題が多く、対策としては参考書にあるチェック問題で基礎を固めておくことよい。会話の問題集同様、何冊も手を広げるよりも一冊に参考書を絞って文法知識を蓄える方が効率的である。

**3** 文章読解問題はスキミングやスキヤニングに慣れることで見直し時間の確保を

高等学校で採択されている教科書の素材文や、テーマを広げる意味で同等レベル・語数の英文読解問題集を準備して速読力をつけるとよい。先に設問文や選択肢に目を通すスキミング、該当箇所を探し読みするスキヤニングの両方の力を養うことで見直しの時間をより多く確保することが可能である。特に今年度の文章読解問題は数字や地名が多く登場し、また設問もそれらに関するものが多いことから、情報処理能力としてのスキミングやスキヤニング能力を重視する傾向にあると言える。合計解答数はそう多くないものの、大問Ⅰでは内容把握を問う比較的長めの選択肢も見られることから、必要な情報を素早くつかみ、解答に費やす時間を短縮する練習を重ねるのが肝要である。

## 2017年度 数学 一般入学試験【全学部共通】

**傾向** 数学 I, 数学 A の全範囲からまんべんなく出題される  
教科書の理解を基本とした応用問題を解答する力が求められる

### ① 出題形式は？

全問がマークセンス方式で、問題数は大問が全部で6題あり、そのうち、必答問題は3題、選択問題は3題の中から2題を選択することになっている。必答問題3題での小問数は8、マーク箇所は27である。選択問題については、IVは小問数3、マーク箇所8、Vは小問数3、マーク箇所6、VIは小問数3、マーク箇所9である。試験時間は60分である。

### ② 出題内容はどうか？

大問 I が小問集合（単項式の計算，データの代表値，不等式），大問 II が2次関数の最大値と最小値，大問 III が三角比の性質からと，いずれも数 I からの出題で，選択問題は，大問 IV が確率，大問 V がユークリッドの互除法，大問 VI が空間図形からと，いずれも数学 A の範囲からの出題であった。数学 I ・ A の範囲を網羅しており，抜けない学習をしていく必要がある。

### ③ 難易度は？

どの問題も，教科書の章末問題レベルの問題より一步踏み込んだ内容となっており，各大問の最後の問題はやや難しい問題となっている。難易度は例年より若干上がったと思われるが，学校の教科書や問題集等の学習を積み重ねていけば十分に対応できる。

## 対策

### ① 基礎をしっかりと固めたいので，応用問題を解く

いろいろな基礎的事項を組み合わせ解いていく問題が多く出題されている。まずは，教科書の章末問題さらには，それと同レベルの薄手の問題集を用いて答えを導くだけでなく，途中式も書いて考え方を確認していきながら解くことにより，基礎をしっかりと固めながら応用力をつけることがベストである。また，一歩先の応用力をつける方法としては，センター対策用の問題集等を何度も繰り返して解き，それぞれの分野での問題の解法のパターン分けができるようになると，問題を読んだときに，解法が思い浮かぶようになる。

### ② マークセンス方式の解法のコツをつかむ

マークセンス方式の問題では，マーク箇所の個数で答えのおおよその見当をつかむことができる。また，問題を解いていくなかで，解答へたどりつく道しるべにもなる。ただ，この問題方式の場合では，途中点を与えるということは少なく，また，分数の約分や比を簡単にして解くなどといった注意事項もある。これらのことを考慮しながら，問題を解いていく練習を積み重ねよう。

### ③ グラフや図形を必ずかく

本学の入試問題では図やグラフが与えられていないことが多い。また，与えられた情報を正確に読み取らないと実際とは違った図をかいたうえで問題を解くことになり，全ての問題の答えが違うことにもなりかねない。また，問題によっては後の問題になって補助線を引く等といったことも出てくるので，図がきちんとかけるかどうかで点数が大きく分かれてしまう。本学の過去問題を解いていく際にも，図やグラフをかくことを心がけ，点数の差がつかやすい関数や図形の問題を得点源にしていこう。

**2017年度 国語 一般入学試験【全学部共通】****傾向** 平易でわかりやすい問題文  
基礎的な知識と読解力が必要**① 出題形式は？**

全問マークセンス方式の五者択一問題である。大問が2題で、各大問に小問が10問ずつ出題されている。解答数は全部で36個である。試験時間は60分である。

**② 出題内容はどうか？**

例年通り、大問Ⅰ・Ⅱはともに論説文を題材としている。小問の構成もほとんど共通しており、小問1～3は漢字と語句の知識・使い方を問う問題、小問4～10は読解問題で、箇所内容を問う問題、空所補充、理由説明、脱落文補充、内容把握問題である。

**③ 難易度は？**

題材の論説文は難解な語句や漢字が少なく、平易な文章である。出題内容もごく標準的なレベルであり、難易度は高くない。長文の論説文に慣れる必要はあるが、模試や過去問題などを繰り返し解くことで十分対応できる。

**対策****① 漢字・語彙の知識を身につける**

漢字・語彙を問う問題は決して難しくないので、ここで時間を取られるのはもったいない。同音異義の漢字を熟語とともにきちんと使い分けられるようにしておくべきである。また、日常的に新聞や模試に出題された論説文などを読み、意味の理解があいまいな言葉・慣用表現はそのつど確認し、使い方を身につけておこう。

**② 論理的な読解力**

長文の題材は平易な文章で、論旨も明解に展開されているから、読解の基礎的な技術を身につけておきたい。接続詞の意味を正確に理解し、段落どうしのつながりを読み取ること、指示語が何を指しているかを把握すること、筆者の主張の中心がどの部分に書かれているか、その根拠となる説明はどこにあるのか、といったことに注意しながら問題にあたるとよい。短い論説文を多く読むことで論理的な読解力を養い、次第に長文も読めるようにしよう。

読解問題の選択肢は少しずつ異なる言い回しを使った紛らわしいものも含まれているので、本文中に出てくる言葉を捨うだけでは正解できない。消去法を使い、異なる言い回しのどれが誤っているかを見つけることで解ける問題が多い。最後に選択肢の文の論理的なつながりが本文の論理と合致しているかをきちんと確認しよう。

**③ 全体の配分を意識する**

出題傾向は今後もほとんど変わらないと思われるので、問題構成を把握しておこう。時間を計って過去問題を繰り返し解き、時間配分に慣れておくことが大切である。本文に大まかに目を通し、まず知識問題を短い時間で解き進めたい。ここで確実に得点を稼ぎ、読解問題に落ち着いて取り組めるようにすることで余裕が生まれる。読解問題は解き進めると同時に本文の内容を頭に入れていけば、最後の内容把握問題で全体を読み返す必要はなくなる。論説文の長さに惑わされず、全体の配分を考えて解く訓練を積み重ねよう。

**2017年度 日本史 一般入学試験【経済学部】****傾向** 時代ごとの知識の整理が必須  
文化史が高得点へのカギを握る**1 出題形式は？**

問題は大問5題で構成、全問マークセンス方式による四者択一の選択問題である。試験時間は60分で、解答数は、大問1題に対して小問10個の全部で50個となっている。

**2 出題内容はどうか？**

大問Ⅰ～Ⅳは、400～700字程度の文章中の空所や下線部に対する小問を出題する形式。大問Ⅰは古代の制度・法制史、大問Ⅱは中世の外交・貿易、大問Ⅲは明治時代の外交史、大問Ⅳは戦後の経済史がテーマとなった。出題内容は、経済や産業、貿易の比重が大きいものの、政治・外交分野も幅広く問われる。大問Ⅴは、古代から近世までの文化史である。小問1問ごとに提示された二つの短文に対して、その内容の正誤の組み合わせを答える形式となっている。

**3 難易度は？**

出題される範囲は古代～近現代まで幅広いが、全体を通して難易度が高い問題は出題されていない。そのため、教科書の重要語句レベルの知識を確実に押さえ、基本問題を中心に、確実に演習を進めていけば十分だと思われる。

**対策****1 出題頻度の高い近世以外の学習も必須**

出題される時代は、古代～近現代と広範囲であり、全ての時代について、教科書の重要語レベルの知識を確実に学習しておく必要がある。問題集や模擬試験などで間違えた部分を徹底的に反復学習し、弱点になる分野をなくすようにしたい。

問題傾向として、人物や出来事などの語句を選ばせる問題だけでなく、正誤選択問題も出題される。用語の丸暗記だけでなく、語句の意味や制度のしくみ、当時の社会の様子まで理解しておこう。2017年度の入試では、大問Ⅰにおいて、班田収授法で与えられる口分田の面積が出題された。教科書に登場する数値についても、基本的なものは暗記しておこう。

**2 時代・テーマ・分野を意識して知識をつける**

大問それぞれがテーマに沿った内容で出題されているが、ほとんど一つの時代についての出題となっている。各時代の政治・外交・社会・産業などを表にまとめるなど、分野ごとの学習が必要だ。貿易や産業、税制といった経済史分野の比重が高めになっているので、特に丁寧な学習が必要になる。また、朝鮮半島や中国の王朝交代など、周辺の国々の動向も頭に入れておきたい。

**3 確実性の高く得点源となる文化史を学習することで苦手が味方になる**

2割配点となっている文化史は、学習次第で確実な得点源となる分野である。基本的には教科書レベルの内容を理解していれば十分である。ただ、人物名と作品名の組み合わせなどを問う問題は、多くの受験生にとって大変であると思われる。美術作品や建築物などを覚える際には、資料集の図や写真なども利用し、イメージで覚えよう。文学作品や思想書なども、内容や社会への影響を簡単に良いので知っておくと覚えやすい。得点源をおさえるためにも、必要な知識量が多いため、早めに計画を立て、自主的に学習を進めていくことが重要である。



**2017年度 生物 一般入学試験【リハビリテーション学部】**

**傾向** 生物基礎、生物の教科書レベルの知識が幅広く出題される。  
説明できなければ解答できない確かな知識が求められる。

**1 出題形式は？**

大問数4題，小問数27問，解答数33個で，すべてマークセンス方式である。大問Ⅰと大問ⅡはそれぞれA・Bに分かれており，大問Ⅰでは内容が異なる単元が，大問Ⅱでは内容が同じ単元が出題された。試験時間は60分である。

**2 出題内容はどうか？**

生物基礎と生物から，細胞（細胞小器官とタンパク質），遺伝子（DNAの構造と半保存的複製），代謝（呼吸，発酵），体液と恒常性（ホルモン），神経（神経細胞）が出題されている。

**3 難易度は？**

教科書程度の内容の知識と理解が問われており，教科書レベルの用語について問う問題が多い。一方，教科書で説明されている事柄の中でもやや細かい内容が問われている設問があり，その語句について十分な説明が自力で行えて初めて正解できる問題も存在する。最も差がつく設問は計算問題と実験から知識をもとに結果を推測する問題であろう。

**対策****1 教科書の基本的内容の幅広い理解を**

分野に偏りなく出題されているが，問われている内容はほぼすべて教科書の範囲内である。まずは教科書の内容を読み込み，大まかな内容を把握したら，基本的な教科書準拠の問題集や基本的な問題集の空所補充問題を用いて穴埋め演習を行うのが望ましい。しかし，Ⅰの問4や問9，Ⅲの問4のように教科書の語句についての記述が自力で行えれば解答できる問題が頻出しているので，一通り教科書の語句を学習したら教科書の基礎事項や必要な図を何も見ずにノートに自力でまとめることができるか確認するのも一つのアプローチである。

**2 覚えた語句の内容を説明できるようにする**

Ⅰの問3や問4ではタンパク質の機能，問8や問9ではDNA複製の方向性，Ⅲの問5では血糖調節に働くホルモンの知識を用いて実験から結果を推測させる問題などが出題されている。これらは単に教科書の語句そのものを問うものではないが，教科書の語句や図，そして事実についての「理由」がわかっているならば正解できる問題である。例えば，DNAは5'から3'の方向にしか合成できない事実が分かっているならば「岡崎フラグメント」の存在やⅠの問9のような図の意味が理解できるであろう。

その意味では，図録は必要な知識の網羅性が高く有用である。また，生物の基礎事項を覚えるのに精いっぱいであると感じたら，講義形式の参考書などを用いて基礎事項や用語を「言葉として」説明できるようにし，自分で「ストーリー」の中で基本を押さえることを勧める。

**3 過去問題と多くの大学の入試問題も活用する**

教科書の知識をただインプットしただけで解答できる問題は少なく，実験問題のように一定の思考訓練や「知識を思い出し，解答に反映させる」訓練が必要な問題が多々出題されている。

そのため，同形式・同難易度・同傾向の過去問題はもちろんのこと，入試問題が収録されている受験生向けの問題集や教科書の語句を学習した後に取り組める問題集に積極的に取り組むのが望ましい。